



日	月	火	水	木	金	土
						1 陶芸教室1
2 手形・足形WS	3	4	5 休館日	6	7 牛乳パックWS	8 陶芸教室2
9	10	11	12 休館日	13	14	15 陶芸教室3
16	17	18	19 休館日	20	21 料理教室	22 陶芸教室4
23 かがく実験教室	24	25	26 休館日	27	28	29
30	31					

～カレード主催イベント中止のお知らせ～

8月に予定しておりました下記のイベントは、新型コロナウイルス感染の拡大を防ぐため、中止とさせていただきます。

- 8月1日(土) 11:00～11:30 うさこちゃんおはなし会
- 8月4日(火) 10:30～11:00 ピヨピヨおはなし会
- 8月8日(土) 11:00～11:30 うさこちゃんおはなし会
- 8月15日(土) 11:00～11:30 うさこちゃんおはなし会
14:30～15:00 ストーリーテリング
- 8月16日(日) 14:30～15:00 うさこちゃんおはなし会
- 8月20日(木) 10:30～11:00 ピヨピヨおはなし会
- 8月22日(土) 11:00～11:30 うさこちゃんおはなし会
- 8月28日(金) 16:00～16:30 エドのおはなしタイム!

2020年 令和2年 9月 イベントカレンダー(予定)

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 休館日	3	4	5 陶芸教室1
6	7	8	9 休館日	10	11	12 陶芸教室2 アイロンビーズWS
13	14	15	16 休館日	17	18 料理教室	19 陶芸教室3
20	21	22	23 休館日	24	25	26 陶芸教室4 市民歴史講座
27 かがく実験教室	28	29	30 休館日			

※スケジュールは変更になる場合があります。
※詳細は個別のチラシをご覧ください。※陶芸教室は月4回でひとつの講座です

おすすめの1冊

『基本からよくわかる
はじめての絵手紙百科』

著者：小池 邦夫
出版社：主婦の友社
出版年：2020年
背ラベル：/724/3/
場所：一般

大切な人と気軽に会うことが
難しい今だからこそ、絵手紙を
送ってみませんか？手紙やメー
ルとは違い、よりその人らしさ
が現れ、相手の心に響くもの
となります。

「ヘタ」でも良いのです。あり
のままの自分と正直に向き合い、
表現し、その喜びを送り合える。
そんな絵手紙のすばらしさを楽
しんでみてください。

一般展示

戦後75年 ～未来につなぐ～

2020年は終戦から75年の節目です。戦争の記憶を風化させないためにも、1年に1度は戦争について考えなければなりません。

「戦争とは?」「平和とは?」各々が過去から学び、考え、感じ取り、未来につなげていくことが大切だと思います。



児童展示

宿題どうしよう～?この本ですっきり!!

今年度の課題図書と、児童担当スタッフが選んだ、夏休みに読んでほしいオススメの本を集めました。リストもおいてあるので、読書感想文を書く本を選ぶ参考にしてください。

また、工作、自由研究、調べ学習など夏休みの宿題のヒントになる本も集めてあります。夏休みの宿題はここで解決!



YA展示

読んで旅する

新型コロナウイルスの感染拡大、夏休みの短縮、、、なんだか今年の夏はどこにも行けなさそう、、、そんな方のために読めば旅気分を味わえる本を集めてみました!本の中ならいつでもどこへでも行けちゃいますよ♪



期間展示

～8/2(日)『うなぎ大学』 8/3(月)～『芥川賞・直木賞』



ののいち歴史発見!! —まちかど探検隊「燈籠のふしぎ」— ②



ここでは「宮腰」との関係を見ていきましょう。

野々市村と宮腰（現金沢市金石）の関係は意外と深く、弘化三年（一八四六）野々市の本町通にある「照台寺」へ宮腰大商人「錢屋五兵衛」の六女「とし」がお嫁に来ています。

よって五兵衛は婚家先の照台寺に色々と支援を行っています。この婚姻は何故結ばれたのでしょうか、自由恋愛の末なのかはたまたま錢屋側の思惑なのか、ともかく「野々市」と「宮腰」を結ぶ何かがあると思われます。

野々市は宿場であったので、商人が立ち上げた旅宿組合の「千嶋講」、「東講」、「浪花講」、「永壽講」、「遐福講」等に加盟していた宿屋がいくつかありました。これらの講は元々、旅先の商人がきちんと宿に泊まれるように取り計らうことを目的とする制度でした。よって、どちらかといえば商人向けの宿の性格が強いのかもかもしれません。実際に野々市の宿へ、どの程度商人が訪れていたかは判明していませんが、天保十一年（一八四〇）それほど離れていない下林村（現野々市市下林）で宮腰と干鯛（金肥）の取引を行っており、馬借を使って運搬していることが記録に残っています。そして野々市村にも元治元年（一八六四）福井県産石灰の取引記録があり、肥料関係の物資が運び込まれています。さらには同年野々市村の菜種油製造業者と三右衛門も未調整の油を大聖寺から宮腰を経由して購入しています。

地理的には中世、宮腰と白山神社を繋ぐ「白山大道」というルート上に野々市があるとされています。大正時代に町制施行を記念して作られた『野々市町要覧』を見てみると「大野往来」（宮腰と大野は慶応二年（一八六六）に合併し金石となった）の文字が地図に載っています。この道は押野村を貫通して大野町に達するとありますが、大正十年（一九二一）の開通となっており、果たして江戸時代に存在していたかは定かではありません。

陸上での結びつきは判然としましませんでした。河川を通して繋がっていることは確認できます。野々市の「木呂川」、「住吉川」は共に「伏見川」へ合流して「犀川」に流れ込み宮腰の港に到着します。燈籠のような重い荷物は陸路を馬で運ぶより、水路を舟で運んだ方が負担も軽く、また北前船の運用的にも積み荷物が軽くなるとバランスが取れず転覆の危険があるので、バラストとして積み込むのに適しています。

さらに大坂を起点とする北前船の時代になると瀬戸内各地から産出される「花崗岩」が沢山出回るようになりました。今回の調査にあたった燈籠もおそらく花崗岩製であることから北前船からもたらされたものであると言えるでしょう。



「布市神社奉納燈籠（宮腰）」

【参考文献】

- ・野々市町『野々市町要覧』（野々市町、1924）
 - ・白柳秀湖『世界経済闘争史：定版』（千倉書房、1939）
 - ・北陸総合学術調査団『北陸と海運』（北陸中日新聞社、1963）
 - ・北田八州治『弓取郷土史』（弓取農業協同組合、1970）
 - ・日置謙『加能郷土辞彙：改訂増補』（北国新聞社、1979）
 - ・青森市役所『青森市史第7巻資料編1』（国書刊行会、1982）
 - ・金沢市立図書館『旧宮腰町々年寄役中山家文書目録』（金沢市立図書館、1985）
 - ・牧野隆信『北前船の時代：近世以降の日本海運史』（教育社、1988）
 - ・上杉喜寿『北前船の人々：能登・加賀・越前・若狭』（安田書店、1993）
 - ・金沢市史編さん委員会『金沢市史資料編8近世6：湊町と海運』（金沢市、1997）
 - ・金沢市史編さん委員会『金沢市史通史編2：近世』（金沢市、2005）
 - ・小倉学『加賀・能登の民俗第3巻：信仰と民俗』（瑞木書房／慶友社、2005）
 - ・大阪歴史博物館『大阪歴史博物館研究紀要第17号』（大阪歴史博物館、2019）
- 杉本厚典「近世大坂における石工・石商」p41-64

はじめて読む人はぜひ
7月号も読んでみてね。
次回、最終回もお見逃しなく！

※燈籠の調査については神主の承諾を得ております。

～9月号につづく（全3回）～

7月23日～8月31日は『ののいち子ども読書の日』



カレードでは7月23日（木）～8月31日（月）までの期間、『ののいち子ども読書の日』関連イベントとしまして、いろいろなイベントを開催中です！

☆今年はコロナウイルスの影響で残念ながらおはなし会リレーはありませんが、ぜひその時間をお家での「家読」をご家族で楽しむ時間として頂き、たくさんの本を読んで「カレード de ビンゴ！」に参加してもらえたらと思います。

ビンゴの用紙は、カレードにご来館、もしくはカレードホームページからも印刷ができます。完成したビンゴをカレードの総合カウンターに持ってきてもらおうと、素敵な景品をプレゼントしますよ♪

☆毎年大好評の「本のはてなパック」は、児童向け30パックが初日にすべて貸出しとなる人気ぶりでした！一般の21パックとYAの11パックも次々と貸出しされていき、どんな方と本が出会っているかスタッフもドキドキです。

今年はアンケートも行っておりますので、ぜひ感想をお聞かせください。

（はてなパックとはスタッフがテーマを決めて選んだ本が2～3冊入った本の福袋です。）

☆総合カウンター横では「カレードサポーターズクラブ活動紹介」の展示も行っています。こちらもぜひご覧ください。



配本所より おすすめの1冊

『戦場の秘密図書館 ～シリアに残された希望～』

マイク トムソン/著 小国綾子/編訳 文溪堂 2019.12

シリアの内戦のさなか若者たちが求めたものは、体に必要な栄養よりもむしろ心の栄養となる『本』でした。

3人の大学生が中心となって、政府軍に封鎖され空爆によってがれきとなった自分たちの住む街から、危険をかえりみずにいろいろな本を救出し、地下の廃墟に秘密の図書館を作ったのです。そして、14歳の少年が司書長となって図書館を運営しながら、兵士や学校の先生をはじめ市民に愛されていたのですが…。

政府による圧政により陥落した街と秘密図書館。でも彼らの『本』への思いは場所を変えて新しい形で花を咲かせるのです。

今回の1冊はイギリスのジャーナリストが書いたノンフィクションを新聞記者である編訳者が児童書向けに書いた本です。シリアに生きる人々も私たちが同じ地続きに生きているんだと考えると、『本』に対する気持ちも変わるかもしれません。

*こちらの本は図書館2Fのヤングアダルトコーナーとカミーノ図書キッズコーナーに所蔵しております。